

課題・背景

新型コロナウイルス感染症に伴い学校が長期休業
→従来より推進してきたICT教育へのニーズが高まり、早急な環境整備が求められようになった。

学校の休業

・4月 6日(月)～4月12日(日) 春季休業(春休み)延長

4月7日(火) 緊急事態宣言(千葉県含む7都道府県)

・4月13日(月)～5月6日(水) 一斉休校

小中在校生分散登校日 : 4月13日(月)

中学校新1年生分散登校日: 4月14日(火)

小学校新1年生分散登校日: 4月15日(水)

学校の休業

4月16日(木)～5月6日(水)緊急事態宣言全国へ拡大 (特定警戒13都道府県)

分散登校日:4月22日(水)～28日(火) 期間内1日・1時間30分

5月4日(月)～5月31日(日)緊急事態宣言の延長(特定警戒13都道府県)

・5月 7日(木)～5月17日(日) 一斉休校延長

個別相談日:5月 7日(木)～15日(金) 期間内1日・1時間30分

5月14日(木) 緊急事態宣言解除(39県、千葉県を含む8都道府県は継続)

・5月18日(月)～5月31日(日) 一斉休校再延長

個別相談日:5月18日(月)～22日(金) 週1日・2時間

分散登校日:5月25日(月)～29日(金) 週2日・3時間

分散登校日:6月 1日(月)～ 5日(金) 週5日・3時間

・6月 8日(月) 通常登校開始

・6月 9日(火) 午前:小学校入学式 午後:中学校入学式

学びの保障

ドリルパーク(個別学習支援ソフトウェア)の活用

- 新型コロナウイルス対策のため、令和2年3月より前倒しして利用開始
 - 休校中、インターネットを利用して家庭から利用可能(AIによる個々の理解や進度に合わせた学習)
- 進級学年での利用
 - 学年を選択して、予習や復習の実現

タブレットPCの貸与等

- ICT環境を準備できない家庭への支援
 - タブレットPC700台貸与、wi-fiルータ300台確保
 - ※今後再び臨時休業になった場合の備えとして、すでに学校に整備している4,864台を、貸与して家庭等で使用できるよう整備を進める。

学びの保障

学習動画コンテンツのYouTubeによる配信

○教育委員会で企画、作成した授業動画コンテンツを教育指導課公式アカウントで限定配信し、児童生徒の自宅での学習支援を図った。

[制作教科について]

(小)国語・社会・算数・理科・生活・音楽・体育・外国語

(中)国語・地理・歴史・数学・理科・英語

[配信型授業動画について]

- ・1本10分程度で、新年度の教科書を基本とした内容構成
- ・PPT画像と授業者の音声講義形式
- ・4月27日→ 配信開始 ・4月28日→ 動画リスト公開
- ・配信動画本数 118本 ・総視聴回数 139,489回(7/14現在)
- ・一日最大視聴回数 29,115回(4/28)

その他 授業動画の千葉テレビ放送

○教育委員会と市内教職員による授業動画作成委員にて企画・作成した授業を、千葉テレビ第2チャンネルにて放送し、児童生徒の自宅での学習支援を図った。

- ・授業放送本数 86本 (15分/1本)

令和元年度までの取組

- ・児童生徒に向き合う時間を確保するため、PC(キャビネット)の教員1人1台配備を実現し、業務の効率化を図る必要があった。
- ・ICT機器を充実させ、児童生徒一人一人のニーズに合わせたきめ細やかな教育の必要性に迫られていた

- ・教員1人1台PC(キャビネット)配備による業務の効率化
 - 諸帳簿作成、成績・要録作成の統一化
 - データの一元管理
 - データの共有
 - データセンターによるデータ保管(セキュリティ事故防止)
- ・コンピュータ室内での児童生徒1人1台化と学校規模別タブレット配備
 - パソコンを利用しての授業時数の拡充
 - 個々にIDを付与、学習履歴の活用
 - 家庭での学習補助
 - デジタル教材の活用
- ・ネットワーク回線の増強
 - デジタルコンテンツの利用
 - 動画教材の活用

ドリルパークの活用

課題・背景

Society 5.0時代を生きる子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れており、令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務となっていた。

そのような中、昨年12月5日に児童生徒1人1台端末の整備を含む『安心と成長の未来を拓く総合経済対策』が閣議決定され、本市においても子供たち一人一人の教育的ニーズに対応し、児童生徒・教師の能力を最大限に引き出すことが出来るよう、1人1台の学習用端末を整備することとなった。

令和元年度までの取組

文部科学省にて策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018～2022年度)」における以下の水準を目標に取組を行った。

	国の目標水準	千葉市の状況(令和元年度末)
学習者用コンピュータ	3クラスに1クラス分程度整備 (3人に1台)	6. 2人に1台
指導者用コンピュータ	授業を担当する教員1人1台	授業を担当する教員1人1台
大型提示装置・実物投影機	各普通教室1台 特別教室用6台	各学校2台
超高速インターネット及び無線LAN	100%整備	100%整備
統合型校務支援システム	100%整備	100%整備
ICT支援員	4校に1人配置	171校に1人配置

令和2年度以降の方針・スケジュール

整備方針

①児童生徒1人1台端末の整備

児童生徒1人に1台のタブレットPCを配布。

整備内容 76,949台(児童生徒 69,714台 教員 4,964台 予備 2,271台)

②電源キャビネットの設置

各教室に44台入り・22台入りの電源キャビネットを整備

整備内容 2,411台(44台入り2,243台 22台入り168台)

③高速大容量のネットワークの整備

1Gbpsのインターネット接続環境を整備。

小6・中3は学年一斉での同時接続環境を確保。その他の学年は半数程度の同時接続環境。

スケジュール

年	令和2年					令和3年		
月	8	9	10	11	12	1	2	3
①			設計	各校へ設置		試験稼働		
②			設計		各校へ設置			
③	設計		各校で工事			試験稼働		

教育的効果

GIGAスクール構想の実現により、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限引き出す教育が実現する。

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点
からの授業改善

「1人1台端末」ではない環境

一斉学習	・教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる
個別学習	・全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)
協働学習	・意見を発表する子供が限られる

学び
の
深化

学び
の
転換

「1人1台端末」の環境

・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
➡子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
・各人が同時に別々の内容を学習
・個々人の学習履歴を記録
➡一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能
・一人一人の考えをお互リアルタイムで共有
・子供同士で双方向の意見交換・共同編集が可能に
➡各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる

これらの実施のため、ICT支援員など教員のICT活用サポート体制の充実が急務
※全国平均で約13校に1人のICT支援員が配置されているが、千葉市は2人の配置のみ。

令和2年度以降の方針・スケジュール

社会全体が長期間にわたり、コロナ禍の状況

➡ 感染症対策と児童生徒の学びの保障

感染症
対策

子供たち
の学びの
保障

R3年度以降～

#学びを止めない

- ・学習プリント
- ・ドリルパーク(個別学習支援ソフト)
- ・学習動画コンテンツの配信
- ・授業動画放送

#学びを取り戻す

- ・長期休業期間の見直し(短縮)
- ・千葉県版各教科年間指導計画の改訂
- ・教育課程の工夫

#学校ならではの 学びを確保する

- ・学校行事の精選や準備時間の縮減
- ・指導計画の再編
- ・学校の授業における学習の重点化

現在は…

一方通行型の指導

- ・ドリルパーク(個別学習支援ソフト)
- ・学習動画コンテンツ配信
- ・授業動画放送

- ◎いつでも、どこでも可能
- ◎スケジュール調整が可能

これらに加えて

今後は…

双方向型の指導

- ・Zoom, Teams, GoogleMeet等…

- ◎双方向の意思疎通も可能

- ①1人1台端末(タブレット導入)
- ②学校内ネットワークの強化

⇒柔軟な教育課程の編成

学校ならではの学び

- ・協働学習などの学び合い
- ・学校でしか実施できない実験や実習
- ・学校行事や生活指導等

家庭での学び

- ・ICTを活用した個別対応型学習
- ・学校HPの積極的な活用
- ・テレビ会議システムを使った学年学級HRの実現
- ・協働学習ツール等を利用した学びや気づきの交流